

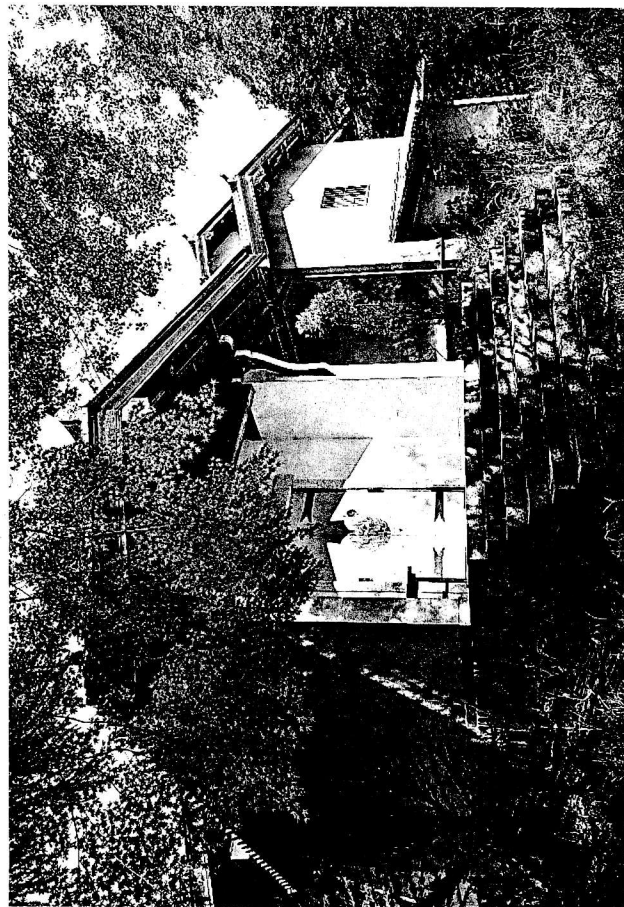
# 都ものがたり 京都 近衛文麿が設立した陽明文庫

## 先祖の遺宝集め 後世へ活用願う

京都市の西北、仁和寺には、近い宇多野の山ふところに、陽明文庫が立つ。平安貴族の藤原氏と、その直系にあたる五摂家筆頭の近衛家の宝物十数万点を収蔵・管理する歴史資料館だ。1938年、時の首相だった近衛文麿が設立した。

近衛は日中戦争から太平洋戦争の直前にかけて首相を3度務めた。高貴な家柄や知的な風貌などから国民的人気を博し、「青年宰相」と呼ばれた。国家総動員法を定め、日独伊三国軍事同盟を結び、大政翼賛会を発足させ、軍部に利用されたポピュリズム(天衆迎合主義)政治と批判されることが多い。

近衛は大学時代を京都で過ごした。入学した東京帝国大学哲学科を1カ月ほどで辞め、京都帝大法科へ進む。後



宝物を収蔵する陽明文庫の2棟の書庫。内部の天井や壁面はすべて桐(きり)材だ。京都市右京区、楠本涼撮影

年、その動機について「河上さん目当てに、社会科学の勉強にひかれた」と回想したことがある。マルクス主義経済学者の河上肇に教えを受け、社会主義の文獻も読み込んでいた。哲学者の西田幾多郎とも芸術談議やピクニックをともし、知人への手紙に「多教友人の温き情愛と、自由の生活と、清麗の山川と、然して西田先生とにより、新しき希望の光線に浴したるを喜ぶ」と記している。

在学中に結婚し、京大近くの吉田山のふもとに新居を構えた。花街の祇園でも遊び、なじみの芸妓は戦後、近衛を「聞き上手で、日本趣味のな

かなかおしやれな方」と回顧している。

その青春を過ごした京都に、各地に分散していた先祖の遺宝を一室に集めて管理する陽明文庫を設立した。近衛家の別荘があった宇多野の地に、2棟の書庫と、近衛の号を冠した数寄屋建築「虎山荘」などが立つ。文庫はエネスコの「世界の記憶」に登録された藤原道長自筆の「御堂関日記(国宝)」や、源氏物語の写本など宮廷文化を伝える貴重な品々を収めている。

「資料を記録し、守り伝えるのが近衛家の家業でした。陽明文庫長の名和修(ゆき)が言った。近衛家の古文書を修理する表具師だった父と、別荘で近衛家の世話をしていた母との間に文庫設立の年に生まれ、文庫と同じ敷地内で育った。「私が赤ん坊のころ、文麿公が抱いてくれたそうです」

近衛による文庫設立趣意書には「有識が鍵庫を開いて資料するに便し、弘く世界に遺芳を伝播せん」とある。名和も「文化財は保存だけでなく、活用も大事です」と述べ、見学者の受け入れや博物館での展示にも力を入れている。「文麿公もよく陽明文庫に来て、資料を見ていたそうです」。激動の戦前の昭和期に、先祖の遺宝を前に何を思ったのだろうか。

――敬称略(池田洋一郎)



近衛文麿

1891〜1945年。政治家。戦前には3度にわたって首相を務めた。戦後は戦犯に指定され、出頭を拒んで服毒自殺した。